

911.3
セ
2

井理抄卷之三

深川藏



井蛙抄第二

取本一奇事

八雲抄のあまの御言第一乃大ま事よまことふたゆりま  
 なりまのあれと又いとよまらぬ人も物もあまこと  
 るもあまよま此中まもあま事よまことぬまのあり  
 此二振あり一ハ詞とあてあはし一まあまことま  
 物成入るるもあま詞とあてあはし風情をわくまらるる  
 風情とあま事いひあま若らとりて物成よまは  
 まま今も古今平に月夜の



井蛙抄





我とめつ〜うよかんきんしんよはたお〜う入  
やまもて<sup>たんご</sup>末代乃入の〜の舟おのりよかんは〜  
さの〜あ〜〜〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る  
し〜とあふす〜海門の人はお〜りき〜るお  
もなき事ばよのあらあ〜む〜そ〜は〜る海  
しき百葉集の初お〜りき〜〜〜てま〜成  
〜は〜あ〜る〜は〜〜〜ありと〜は〜る〜は〜る  
〜〜らあ〜る〜じと〜するお〜も〜二句〜る〜り〜  
せん〜の〜あ〜る〜事〜を〜し〜る〜〜〜〜<sup>とら</sup>次凡古平老洞

〜〜〜と〜は<sup>せんご</sup>先達あんま〜れ〜り  
被<sup>ま</sup>進<sup>り</sup>棟<sup>の</sup>井<sup>の</sup>宮<sup>の</sup>抄<sup>の</sup>よをす〜と〜りて〜  
と<sup>ま</sup>海<sup>の</sup>本<sup>の</sup>〜又<sup>の</sup>句<sup>の</sup>此<sup>の</sup>中<sup>の</sup>は二句の〜  
おめ〜〜あ〜り〜二句乃〜入〜三字四字是とゆ  
と<sup>あ</sup>行<sup>の</sup>き〜と<sup>あ</sup>事<sup>の</sup>せ〜よ〜<sup>あ</sup>以<sup>て</sup>て古平海と海と  
る<sup>あ</sup>念<sup>の</sup>ち〜<sup>あ</sup>花<sup>の</sup>と〜<sup>あ</sup>月<sup>の</sup>と海〜<sup>あ</sup>月<sup>の</sup>と以<sup>て</sup>花  
と海と四季乃す〜と〜<sup>あ</sup>糸<sup>の</sup>難<sup>の</sup>乃平と海〜<sup>あ</sup>意  
難の〜と〜<sup>あ</sup>四季<sup>の</sup>れ〜と〜<sup>あ</sup>海<sup>の</sup>と〜<sup>あ</sup>乃<sup>の</sup>〜<sup>あ</sup>と〜<sup>あ</sup>あ  
所<sup>あ</sup>古<sup>の</sup>方<sup>の</sup>と〜<sup>あ</sup>な<sup>の</sup>よ<sup>の</sup>物<sup>の</sup>か〜

井庄あ

三三



雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

春 雑

なをめれ神をけいのみをまのしんをくらしうはまを

まよやめれ神のくもをむかひとてはこころを

雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

春

梅枝よこころのきこまうけとあきこころなるまほしうらゝいめん

雑

思ふらそこきこまうけとあきこころなるまほしうらゝいめん

雑

おしんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

まよやめれ神のくもをむかひとてはこころを

雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

おしんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

まよやめれ神のくもをむかひとてはこころを

雑

しんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

雑

おしんがきんやひがふたのこころなるまほしうらゝいめん

牛窪

秋  
 津波は雲の月影をひらきほろりまよひ野を乃村の舟  
 年と今くほろり一里はあてあかすいづれもあはれ  
 一乃をいふ秋の心よとらりて月信と集まらば  
 まよか平に中かきは晴着にたる波あつてあはれ  
 りかこもかきまよひつらめくひたか  
 清きくよあつていづれもいづれもあつてあはれ  
 みよの松の雪もた清きくよあつてあはれ  
 あつてあはれ月の光をひらきほろりまよひ野を乃村の舟  
 まよもあはれまよひつらめくひたか

卯花乃まよひつらめくひたか  
 多岐のあまのしづめあつてあはれ  
 玉川とほろりまよひつらめくひたか  
 天川の波もあつてあはれ  
 天川は波もあつてあはれ  
 志笑の浦もあつてあはれ  
 志笑の浦もあつてあはれ  
 志笑の浦もあつてあはれ













中務の親王は平去

高羽のしんがはぬし相取の實れあはしよめりまらせ

氏平の毎句の花藤返りかきしうあるかへし

青羽の多しよつあは板乃園のあはしよめりまらせ

松云はしし中平已及三句并み稱平之河之

不審

九条前内符被付河之平平似るしん古平句之

左下及三句為河平者ハ先達申<sub>ひ</sub>念之由作ん

六百番平合

右

思ふらそこたひしは判書め花の者せぬも

方志しし小書録之由り

判云志方の慧性法師乃思ふらまは山より

うらまはれくこた志ぬ藤のしり

ふ平とりすくせらるもやゆんあまはう

心とよ花のぬとれるあまら入懸るもや

あうりすし持めくもやゆん

一葉中平歌 廢衣 亦 眞

千五百番平合

右勝

右大臣

誰とくまもつらなる一ははなや草のまのくはるさあねる

右

雅理

出乃めめかひよまき程のせはまはるるも瀬の白浪

右ののり柴乃山のしつくりのまらちもまあとい

あまのせよとりてたはきくくよまらちそあま

あまのりあからりしりく<sup>え</sup>かみしゆるるをた

人の心乃んこころれらるるあまのあまの思つるあ

一のりあまはあるとゆきとね申吉のオハ

美葉はあまをよひこりるへし仍い右<sup>を</sup>あ猪

同歌合

右

有家朝臣

朝日けゆりふ山はとくたはまらるる清めあがをみ

右

定家朝臣

梅魁うのりうまきあまのて方とあめら<sup>あまら</sup>後芽生あ

右朝日けとくまらるるまらるるあまらとみあ

心<sup>あ</sup>情いあまらるるあまらるるあまらるるあ

なめすいふことしひかきありぬる海菜は乃  
るにれくくともやちんあはれはもあくる  
やとそはまことたはる那りくしむむ。一は  
鶴乃ゆきまう。うういんちくうておほくはま  
ん勝負すておまもてむて同科とやしんくは  
月あ合

た

季能

駒なめていせいのまきとあはれあはれまはす  
後成の女

ちゆ乃松のそくもすまてま上の風は花を散る  
たにせのまきとあはれあはれまはす  
てしよはゆるくと下白くを何れつとらうあ  
ゆるんあかんのおくえんくふえよとことめは  
葉葉葉あもまきの山野もははく。榎か  
ゆるあはれよはあはれゆるりたをあはれ  
ゆるくとあはれゆるりたをあはれゆるりた  
集よもあはれゆるりたをあはれゆるりた  
ゆるりたをあはれゆるりたをあはれゆるりた



事ながらふしつとそち揚とわはるる  
六百番平合

右橋

定家朝臣

判云右弁よびや万葉集とすおはるる  
と好下彦幾す

愚管抄云

保兼法眼 万葉集云とす

家治百首下

正三位知家

今夜もよのきつるの秋風はらたけり  
きよはらふもよのきつるの秋風はらたけり  
よのきつるの秋風はらたけり  
よのきつるの秋風はらたけり

先後朝臣

子葉被社のなをまに舟こめて大崎  
いもく神まはるるの秋風はらたけり  
いもく神まはるるの秋風はらたけり

大瀛の邦の... 是は石上... 配土依國之時... 平... 此は言事...

文永二年 龜山教又首平合

い... 右念の... 是は言事... 有徳...

... 淡路... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

花中納言定家

白雲... 山... 花...

... 舟... 舟...

... 舟... 舟...

淡路島松帆乃浦之朝名...

青菜才藻塩焼管 海未通女

新勅撰 石清水 隠阿茶 禁中

らりもせし夜よすれり竹の大主人乃るはなはた  
はく平の大主人乃るはなはたはなはたはなはたはなはた

海を引綱

後二位 皇降

波風をのこるる世世はなはたはなはたはなはたはなはた  
細能浦之海慶女あはれ焼塩乃念も焼吾下情  
あまのりよはなはたはなはたはなはたはなはたはなはた  
のそはなはたはなはたはなはたはなはたはなはたはなはた

已上法眼抄

古来風神云万葉集乃千はなはたはなはたはなはたはなはた  
之よはなはたはなはたはなはたはなはたはなはたはなはた

一物諸奇取中歎事

後之相院抄云万葉合此奇はなはたはなはたはなはたはなはた

よまの原とそ釋阿茶蓮あはなはたはなはたはなはたはなはた

ていつり題乃又とくおしはなはたはなはたはなはたはなはた

物結乃千はなはたはなはたはなはたはなはたはなはたはなはた

しやきとそく物結乃其心とそ百首乃あはなはたはなはたはなはた



ゆりよのたはりの侍る人

琴<sup>ト</sup>此書も月七えのあきあきしつゝあはれなる

正治百首

たふたふ

一 井川若もる床のぼたけりまをさしひとちりたう  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる



あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

